

平成27年度第70回北海道教育研究所連盟研究発表大会（渡島大会） 兼第57回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会

平成27年9月3日（木）、4日（金）に「ロワジュールホテル函館」を会場に、全道100名の教育研究所・研修センターの所員が参加し、平成27年度第70回北海道教育研究所連盟研究発表大会兼第57回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会を開催しました。

第15次共同研究研究主題「実践的指導力の向上に係る支援の在り方」に基づき、1日目は全体発表と記念講演、2日目は部会ごとに研究発表や研究協議等を行いました。

■ 9月3日（木）【全体発表】



【共同研究についての説明】

【発表】 共同研究推進委員会 岩本 宜之 委員長

- 各教育研究所等においては、域内の各学校の授業改善や校内研究等の取組に対する支援が必要である。また、教員の経験年数などライフステージに応じた研修を充実させる必要がある。
- 共同研究推進委員会においては、「教員研修に関するアンケート調査」の実施・分析を行った結果、「多くの学校で、月1回以上の校内研究を実施するなど、その重要性を十分認識しているが、学校全体で組織的・計画的に取り組むことに課題がある」などの実態が明らかになった。

■ 9月3日（木）【記念講演】



【記念講演の様子】

【記念講演】 国立教育政策研究所初等中等教育研究部長 大杉 昭英 氏

- 子どもたちに、これからの時代に必要となる資質・能力を育成するためには、「内容の重視」から「能力の重視」への教育の転換や、主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）に関する指導方法を充実させる必要がある。
- 各教育研究所・研修センターにおいては、今後、「講義形式の研修から、より主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）の要素を含んだ研修への転換」、「新たな教育課題に対応した研修プログラムの開発」及び「研修指導者の育成」などに、積極的に取り組む必要がある。

■ 9月4日（金）【部会】



【部会の様子】

【第1部会の協議から】「授業改善のための学校への支援の在り方」

- 教育研究所等においては、広報誌により授業改善などに関わる情報発信を行う際は、分かりやすい言葉や写真、コラムを掲載するなど、多くの教員に見てもらうための工夫が必要である。

【第2部会の協議から】「校内研究の支援の在り方」

- 教育研究所等が各学校の校内研究の推進について支援を行う際、校内研究の取組内容や抱えている課題等について十分に把握しておく必要がある。

【第3部会の協議から】「学び続ける教員への支援の在り方」

- 研修講座への積極的な参加を促すためには、講座を長期休業中に開催したり、所員が学校に訪問し、講座を実施したりするなどの工夫が必要である。